

令和 4.3.28発行

第49号

長崎県消防団員指導員課程研修(大村市)



長崎県消防功労表彰式(長崎市)

東彼杵町消防出初式



長崎市消防出初式



長崎県消防殉職者慰霊祭(県庁大会議室)

令和4年度 全国統一防火標語

お出かけは マスク戸締り 火の用心

日本消防協会会長表彰

(令和四年三月四日)

表彰旗 新上五島町消防団

竿頭綬 佐世保市消防団

平戸市消防団

南島原市消防団

功績章 長崎市消防団副団長

犬塚 勇次 外十九名

精績章 島原市消防団副団長

林田 隆蔵 外四十六名

勤続章 対馬市消防団副団長

築城 慎一

外百六十三名

長崎県消防協会会長表彰

竿頭綬 (無火災)

長崎市消防団 (第四十二分団、第

四十六分団、第五十一分団、第

六十二分団)、佐世保市消防団 (第

五十八分団)、島原市消防団 (第九

分団、第十六分団)、平戸市消防団

大島地区第一分団、雲仙市消防団 (吾

妻支団第五分団、千々石支団第七分

団)、南島原市消防団有家地区第四

分団、新上五島町消防団 (若松地区

第一分団、同第十一分団、上五島地

区自動車第一分団、新魚目地区小串

分団)



特別有功章

五島市消防団副団長

池村 義和 外二百四十九名

有功章

諫早市消防団分団長

横尾 将己 外六百四十五名

表彰状

佐々町消防団部長

藤永 洋平 外十一名

精績章 (金・銀)

東彼杵町消防団副団長

浦 修一 外六百七十九名

感謝状 (一号〜四号)

前佐世保市消防団副団長

中村 忠男 外六百七十二名

(以上令和四年消防出初式)

長崎県消防功労表彰式

令和三年七月一日、県との共催によ

る「長崎県消防功労表彰式」を長崎市

のサンプリエールで開催いたしました。

例年は、長崎県消防団大会の席上、

多くのご来賓、関係皆様方のご出席の

もと、行っておりましたが、今年も、

新型コロナウイルス感染症の感染拡大

防止のためこの大会が中止となったこ

とから、参加者を限定して功労表彰式

感謝状

退職市町長

前新上五島町長 江上 悦生 様

退職消防団長

前南島原市消防団長 大山 秀孝 様

消防事務担当者

佐世保市消防局東消防署

合志 直喜 様

前東彼杵町総務課防災交通係

松山幸一郎 様

前新上五島町奈良尾支所

小川 豊泉 様

(以上令和三年七月消防功労表彰式)

のみ行いました。

当日は、消防団活動に長きにわたってご支援をいただき、功績顕著な消防団協力事業所の方々とともに、長年、消防団活動に精励してこられた皆様の栄誉をたたえ、長崎県知事からの表彰、及び長崎県消防協会会長による日本消防協会会長表彰の伝達、永年の無火災消防団の表彰、退団された消防団長への感謝状の授与などがありました。



全国消防殉職者慰霊祭

第四十回全国消防殉職者慰霊祭が、九月二十八日、新橋にあるニッショーホール（ヤクルトホール）で、厳肅かつしめやかに行われました。今回は、新型コロナウイルス感染症の問題から、全国の遺族の方々の参列もさし控えるなど、参列者を限定しての開催となりました。式典では、秋本日本消防協会会長の式辞のあと、管内閣総理大臣、武田総務大臣が、新しく祀られた三柱を含む五千七百七十六柱の御霊に追悼の言葉を捧げ、献花と江戸消防記念会の皆様による鎮魂の歌「木遣り」が披露されました。



長崎県消防殉職者慰霊祭

令和三年十一月二十七日、長崎県消防殉職者慰霊祭が、長崎県庁一階の大会議室において、県との共催により、厳肅に行われました。

この慰霊祭は、防災の任務遂行中に不幸にして尊い犠牲となられた長崎県内の消防殉職者並びに消防協力受難者の功績を称え、深く敬意と感謝を捧げるとともに、これらの方々の冥福を祈り、在りし日の面影を慕い、志を同じくする者の範とすることを趣旨とし、ご遺族及び消防関係者等の出席のもと

に、毎年行っております。

今年も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、出席者を限定して行わさせていただきます。

会場には、明治時代からの消防殉職者三百七柱が祀られ、黙祷の後、県消防協会総裁の長崎県知事の式辞に続き、県議会議長、県市長会会長及び県消防長会会長の慰霊のことばをいただき、その後、ご遺族や消防関係者などから献花が行われ、約八十名の出席者が、ご冥福をお祈りしました。

最後に、県消防協会の川上会長が、お礼を述べるとともに、郷土の安全・安心を確保するため、一層の努力を重ね、消防活動に邁進することを誓いました。

地域防災力充実強化大会

in 長崎 2021

令和三年十一月二十日、「地域防災力充実強化大会 in 長崎 2021」が島原市の復興アリーナにおいて開催されました。

この大会は、地域防災力の向上を図るため、消防庁が毎年一回、都道府県・市町・都道府県消防協会とともに開催しており、今回は「雲仙普賢岳噴火災害から三十年、消防団との連携で挑む地域防災への挑戦」をテーマに、金子総務大臣や秋本日本消防協会会長、中村長崎県知事をはじめ約七百八十名の参加のもと、基調講演や事例発表、パネルディスカッションなどが行われま

した。

この中では、熊本県の球磨村から昨年七月の豪雨災害時の村の対応、そこから学んだ教訓などが報告されるとともに、人口減少で、防災を担うマンパワーが不足していく中で、地域コミュニティの取組強化や自主防災組織の活性化、消防団などとの連携強化が必要であるとの意見が発表され、最後に、日本一の自主防災組織を目指していくという島原市の決意が全国に向けて発信されました。

大会は、開催地である島原市はもとより、諫早市、雲仙市、南島原市をはじめ、県内各市町から多くの消防団員



の皆様に参加いただき、盛会のうちに終えることができました。

また、三十余りの団体・機関の皆さまに大会の趣旨をご理解いただき、ご後援をいただきました。

今後とも、本協会としましては、県、市町と連携して、消防団と自主防災組織との連携強化に協力していきます。

第四十四回

消防職員意見発表会最優秀賞

「経験から得たもの」

長崎市消防局 蔵園 彩乃



「助けを待つ」ということは、私が想像していた以上に永く、そして孤独でした。

その日、休日を利用して山登りをしていたときのこと、私の不注意から滑落してしまい、左足首の靭帯を断裂する全治四か月の大怪我を負いました。

私ひとりのために、消防隊や消防へりを出動させ、言い表すことのできな罪悪感でいっぱいなのなか、救助を待っていた時間はとても長く、「お願いします、早く助けに来てください。」その一心でした。

私もこれまで消防隊員として、あらゆる現場で活動してきましたが、要救助者が消防隊の到着をこんな思いで待っていたのかと身を持って学び、要救助者の気持ちを分かったつもりでいた自分をとても恥ずかしく思いました。

何より出動に、迅速さを求めることの意味を考えさせられました。

私を救助してくださった隊員方は、息切れしながらも、声掛けや笑顔を絶やさず、励ましてくださいました。

救助を待っている間、無限にも感じる孤独と絶望のどん底にいた私への励ましの言葉は、とても心強く、安堵感で涙が止まりませんでした。

そのひとつの声掛けが、要救助者にとっては孤独から救い、希望の光になるのだと痛感しました時でもありません。

私は、消防士になってからというものの、救助することに懸命になり、気づかないうちに見えるものが見えなくなっていたことに気がつかされました。

例えば、要救助者の場所をより正確に知りたいという思いから「場所はどこあたりですか？近くに何がみえますか？」と何度も繰り返し確認します。

私はそれを分かっているながらも、皆さんの機関から同じことを聞かれることでしだいに「もしかして、誰も私の場所がよく分かっているのかな？」と、とても不安になっていきました。

この時、消防隊が救助にかかった時間は決して遅かったわけではなく、むしろ予想以上に早い時間で到着したにも関わらず、山岳救助に詳しい消防隊の私でもその一分一秒がとても長く感じていました。

このことから、救助を待っている要救助者の、不安を減らすために、もつと消防活動の可能性を広げられるのではないかと考え、要救助者の情報が、

救助に関わるどの機関も一目で分かるような、情報共有アプリを開発してはと考えました。

併せて、要救助者と消防隊の位置が、お互いに地図上で確認できるように、GPS機能も付けることで、消防隊が向かって来ていることを確認でき、安心させることができるのではないのでしょうか。

更に、テレビ電話やSNS機能も加えることで、救助隊や救急隊が直接、要救助者と話せ、ケガや周囲の状況を共有することもできます。

また、必要な救助資機材選定の手助けにもなります。これは、大規模災害にも同様に生かせるのではないのでしょうか。

「大丈夫！場所はわかっています。いま向かっているので、不安な時はいつでも連絡ください。」の消防隊員の一言で、要救助者に本当の安心を提供できると思うのです。

これから先、提案したアプリケーションを含め、新たな救助機材が開発されていくと思いますが、この要救助者の痛みや気持ちを想像できる「心」を伴った消防士がいて初めて価値あるものになると確信します。

あの時、私を救うために消防隊や消防へりだけでなく、多くの機関が動き、救助活動に全力を注いでくださったことを思い出すたびに胸が熱くなり、そして消防職員として採用された十八歳の時、優しさや強さを兼ね備えた消防士を志し、真新しい活動服に袖を通して時の初心を思い出させてくれました。

私は、助けを求めている人たちの孤独に寄り添いながら、必ず助かるのだという希望を与えられる消防士となり、これからも成長していきたいと思ひます。

東西南北

佐世保市消防団 団長



一 佐世保市消防団の概要

本市の消防団は、明治二十七年に消防組三組、約百二十人

で創設され、大戦による動乱期を経て、昭和二十三年の消防組織法施行により六団千四百三十名の体制となりました。その後、市内周辺部に存在していた自警団を公設消防団へ編入しつつ、整理統合や機構改革等を進めた結果、昭和五十八年に佐世保市消防団として一団三十分団条約定数千十名の陣容が整うに至りました。

また、平成に入ると市町合併によって、旧市域周辺に位置する旧吉井町、世知原町、小佐々町、宇久町、江迎町、鹿町町の六町が編入されたことにより、組織再編に取り組んだ結果、令和三年九月の時点において、一団六中隊六十一分団、条約定数千九百二十名の体制となっています。

現在、格納庫九十二施設に、指揮車八台、消防ポンプ自動車五十七台、水槽付消防ポンプ自動車二台、小型動力ポンプ付積載車三十四台、多機能型積

載車三台、合計百四台の車両をもって、水火災をはじめとする災害に備えています。

二 消防団の活動

本市消防団の活動は、年頭の消防出初式に始まり、日常の災害対応や月例の機械器具点検のほかに、文化財防火訓練、春季・秋季並びに夜間訓練、署団合同訓練、市総合防災訓練など、各種の実科訓練を行っています。

さらには、初任者研修、機器操作研修、中級並びに上級幹部研修等の実務教養研修等で資質の向上を図っているほか、さらにはチャリティーバザーや

防火パレード等の各種行事を実施しながら、歳末の消防特別警戒で締めくくっています。

また、近年は各地で集中豪雨をはじめとする大規模災害が多発しています。本市においても河川流域の水害対策を強化するべく、指定河川流域を管轄する分団に対し、これまでにウレタン製救助補助ボートを十五艇配備し、操作訓練を開始したところです。

三 女性機動分団の創設

本市では、平成五年に初めて女性消防団員を採用して以降、全国女性操作大会にも二度出場し、いずれも上位入賞と輝かしい成績を収めています。

今回、新しい令和の時代とともに、女性活躍推進の場を広げるべく、女性ならではの視点や創造性を活かした活動を促進するため、令和二年四月に消防団本部から

独立させ「女性機動分団」と命名して、女性だけの分団を創設したものです。

これからは、女性の持ち味である優しい雰囲気や、気遣いなどといった強みを生かしつつ、「私達にでき



ること」を徐々に増やし、広い分野での活躍を期待するところです。

四 おわりに

佐世保市消防団では、令和元年に「消防団基本計画」を策定し、この計画に沿った改革に取り組んでいます。

この基本計画は、就労形態の変化や少子・高齢化によって、今後ますます社会が変化していくことを見据えて、「ムリ」、「ムダ」、「ムラ」を無くし、持続可能な体制を整備することを前提に、格納庫の適正配置や、時代に即した車両や装備品の整備等を進めていくものです。

これまで先人が築き上げられた歴史と伝統を、次の世代へ引き継いでいくという信念のもと、魅力ある消防団を目指し、団員一丸となって一層精進してまいります。

消防団の広場

島原市消防団



島原市は人口四万三千人、団員定数六百三十九名で実員は六百十八名で活動をしています。



活動としましては毎月十五日の定期点検、四月の新入団員訓練、七月の団総合訓練、各地区訓練、

春・秋の火災予防週間の夜間広報・年末特別警戒等です。勿論大雨・台風高潮警戒も出動する場合があります。

女性消防団員も平成二十一年度から発足をして操法大会、避難訓練等活動をしております。

今回担当する事になった安中地区副団長の小場です。本部長の永田です。六地区の中で一番小さい地区ではありますが三十分団六十名で士気高く毎年のように優良分団表彰を一つの分団が頂いております。

さて、全国の皆様には三十年前の火砕流による普賢岳噴火災害をご記憶されているでしょうか。その節の感謝の気持ちには、今でも忘れません。災害の伝承と共に毎年六月三日を祈りの日として献花台と半鐘を設置し追悼しております。ただ私達も含めて島原市消防団では皆若く平均年齢三十三歳前後で当時からの団員は、団長と副団長一人

若い方で
未来を守る

消防団員募集

SASEBO

VOLUNTEER FIRE FIGHTERS

0956-23-9253



の二名となりました。
 甚大な被害から落ち着きを取り戻したかのように思わないでもありませんがまだ山には溶岩ドームが張りついており浸食によりえぐれて崩落し火砕流の恐れもあり危機意識を持っています。まだ国による監視体制は続いておりますので少なくともしばらくは大丈夫だろうと思います。
 この地区も団員は元々百名以上おりましたが災害と自然減により現在数に至っております。毎年地区単独で自主防災会、消防団合同で避難訓練を実施して被害を最小限となるように努力を

二 沓岐市消防団の活動
 沓岐市消防団は「自らの地域は自ら守る」という郷土愛護の精神に基づき、沓岐市民の安心・安全のため、日々活動に取り組んでいます。
 主な活動としては、一月六日の出初式に始まり、二月の正副分団長以上を対象とした幹部研修会、春・秋季火災予防パレード、六月の現地教養訓練、

併し発足しました。
 組織構成は、団本部と三十二分団、条例定数千二十二人に対し、団員数は令和三年十二月一日現在で、九百名です。車両は、消防ポンプ自動車七台、小型動力ポンプ積載車五十台を配備し、密着した防災活動を行っています。



「離島を守る消防団」

沓岐市消防団 団長 岩永 章

一 沓岐市消防団の概要
 沓岐市消防団は、平成十七年五月一日に四町の消防団が合

しております。
 まだまだあの時の恐さを忘れる事が出来ないのかも知れません。それでもあの時以前の明るさを思い出し、地域の皆さんと変わらない日常を求めて過ごしていきます。



十一月には消防団フェスタを開催し、放水体験等や沓岐の食材を利用した団員考案によるバザーを行うことで、消防団員間の連帯感、及び強固な消防団組織の構築を図るとともに、市民との交流を通じて消防団PRを行い、未来の消防団員の確保や消防団活性化と促進を目的として行っています。
 また、消防団員の基礎となる消防操法大会では、長崎県代表として全国消防操法大会に九回連続出場し、小型ポンプ・ポンプ車の部でそれぞれ優勝する等、数々の輝かしい業績を残してきました。

三 消防音楽隊（ハミングバーズ）の活動
 沓岐市の消防音楽隊は、平成二十七年十月に結成されました。消防団員で構成される音楽隊としては、当時県内初の試みで多方面から注目が集まりま

これもひとえに、消防団活動に御理解と御協力をいただきました団員家族をはじめ、沓岐市民の皆様、そして長年にわたり尽力いただきました消防団の諸先輩方のおかげであり、次回操法大会もこれまでのような活躍を目標に選手はもちろんのこと、沓岐市消防団をあげて訓練に励んでいるところです。





した。現在、隊員二十二名で活動をしており、週二回練習を行い、出初式などの消防式典はもちろんのこと、様々なイベントに出演することで、音楽を通じて防火・防災を呼びかけ、壱岐市民の安心・安全のために活動しています。

四 おわりに

災害は我々の周りでも、いつ発生するか予想ができません、発生した場合、災害を最小限に防ぎ市民の安全を守ることに、消防団に課せられた最大の使命

であると考えています。今後も市民の生命と財産を守るため、有事の際に対応できるよう日々訓練に励み、常備消防・関係機関との連携を図りながら、壱岐市民の安心・安全のために消防団活動に取り組んでいきます。

令和三年度 理事会・評議員会情報

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和三年度第一回理事会については、テレビ会議による決議が行われました。
第一回理事会 (五月十四日)

(第一号議案)
令和二年度の事業報告が承認されました。

(第二号議案)
令和二年度の決算が承認されました。

(第三号議案)
令和三年度資金運用管理方針が承認されました。

(第四号議案)
第三十六回長崎県ポンプ操法大会等について、原案どおり承認されました。

(第五号議案)
第七十四回長崎県消防団大会について、一部内容を修正し承認されました。

(第六号議案)
令和三年度長崎県消防殉職者慰霊祭の実施について、原案どおり承認されました。

(第七号議案)
多田浩之県危機管理監を顧問に委嘱することが承認されました。
(その他)

消防操法大会の全国各都道府県の開催予定状況について報告がありました。

消防庁の「消防団員の処遇等に関する検討会」の中間報告の概要及び「消防団員の報酬等の基準の策定等のポイント」について報告がありました。

定時評議員会 (七月一日)

(第一号議案)
令和二年年度決算が承認されました。

(第二号議案)
任期満了に伴う評議員十七名の選任が決議されました。

(第三号議案)
任期満了に伴う理事二十二名、及び監事三名の選任が決議されました。

臨時理事会 (七月一日)

川上清記会長、森能範、本田庄一郎、佐々木眞登己、神之浦伊佐男各副会長、宮崎良一常務理事が選任されました。

(第一号議案)
補欠理事選任に伴う評議員会を書面で決議することが承認されました。

(その他)
今後の全国大会の開催計画について報告がありました。

第二回理事会 (十一月二十七日)
(第一号議案及び第二号議案)

令和四年度事業計画書と収支予算書については、原案どおり承認されました。

(第三号議案)

令和四年度の消防協会運営費に係る市町負担金について、原案どおり承認されました。

(第四号議案)

第三十七回長崎県消防ポンプ操法大会を行う際の実施要綱案について、承認されました。

(その他)

高原復興アリーナで十一月二十日に開催された地域防災力充実強化大会について報告がありました。

消防団員の処遇の見直しに係る意見交換、情報交換が行われました。

評議員会 (十一月二十七日)

理事会で決議された事項について、報告がありました。
消防団員の処遇の見直しに係る質疑が行われました。

情報交流会 (十一月二十七日)

理事、評議員参加のもと、新型コロナウイルス感染症防止のため、2フロアに分かれて、交流会を開催しました。

消防団員指導員課程研修



令和三年十一月十五日から十六日まで、令和三年度消防団員指導員課程研修を県内三市一町の消防団から十四名の参加により、長崎県消防学校において実施しました。

この研修は、日本消防協会の委託によるもので、消防団運営の活性化に資するため、消防学校の協力を得て、消防団の中に指導者となる指導員を養成し、地域防災の要である消防団員の充実強化を推進するものです。

訓練一日目は、県消防協会森副会長による講話のあと、訓練礼式、火災防ぎよ（ホース延長）について学生主体

で指導員役を付けて実施したところ、学生間で指導、相互に確認しながら、行うことができました。

さらに、救助・救命活動においては、要救助者の搬送方法、要援護者の避難誘導要領について、指導、実施しました。

二日目は、「現場指揮・安全管理」「災害情報収集・伝達」を実施し、現場指揮の必要性、安全管理の重要性及び指揮者としての役割を認識させました。また、災害情報収集・伝達では、現場での情報収集の必要性と無線による報告について、実習しました。

さらに、火災防ぎよ（ポンプ運用）を実施し、ポンプ車、可搬ポンプ車、有圧・無圧水利の部署要領、中継要領、筒先統制の要領など、時間をかけて実施しました。普段使用しているものの具体的な安全管理要領や計器の詳しい見方等改めて学ぶ機会に限られているので、学生からは「分からなかった部分を指導してもらい、よかった。」旨の意見もありました。

全般的に、「現場における安全確認の重要性を再確認できた」「今後の活動に活かしたい」などの意見がありました。

この研修の実施により、多くの指導員を県内消防団に送り出すことができ、研修の成果が得られたと思われれます。

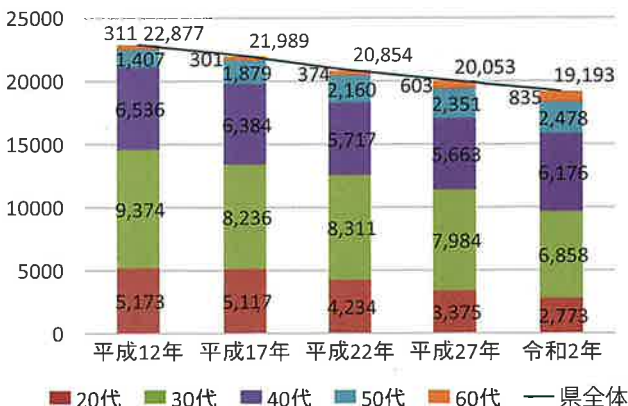
県内の消防団員の推移

本県の消防団員数は、二十年前と比べ一六％減少して令和二年四月現在で一万九千九百九十三人となっています。特に、二十代、三十代の若年層の減少

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計(人)	増減率
^{H12}	76	5,173	9,374	6,536	1,407	311	22,877	H12=100
17	72	5,117	8,236	6,384	1,879	301	21,989	▲3.9
22	58	4,234	8,311	5,717	2,160	374	20,854	▲8.8
27	77	3,375	7,984	5,663	2,351	603	20,053	▲12.3
^{R2}	73	2,773	6,858	6,176	2,478	835	19,193	▲16.1

が三割を超え顕著となっています。四年度から地域防災力の中核となる消防団の充実強化対策として、報酬等の処遇改善などに取り組みこととなりますが、本県では、今年度、消防団勧誘対策研修会を二回開催するとともに、消防団員の勧誘対策支援PR動画「あなたの知らない消防団の世界」を作成し、ユーチューブやよかよかテレビ掲載のほか、DVD化しました。また、消防団協力事業所表示制度PR動画とリーフレットを作成しました。この動画は、消防団に入らない理由に答える形で作成されており、各市町において、地元ケーブルテレビやイベント会場、会議での幕間での放映などで活用していただき、勧誘促進をお願いします。さらに、消防団協力事業所表示制度

世代別消防団員数の20年間の推移



を紹介し、県民の皆様理解していただく動画も作成しました。消防団員の約七割が被雇用者であることから、事業所との連携強化は重要ですので、是非この動画の活用もお願いします。

令和3年1月～12月の火災概況(速報値) [長崎県消防保安室調べ]

区分	令和3年 (A)	令和2年 (B)	増減	増減率 (%)
			A - B = C	C / B × 100
出火件数	426	394	32	8.1
(建物)	197	187	10	5.3
〈住宅〉	112	117	△ 5	△ 4.3
(林野)	29	42	△ 13	△ 31.0
(車両)	36	25	11	44.0
(船舶)	6	4	2	50.0
(その他)	158	136	22	16.2
焼損棟数	279	305	△ 26	△ 8.5
り災世帯数	174	205	△ 31	△ 15.1
り災人員	377	458	△ 81	△ 17.7
焼損面積 (建物 (㎡))	14,433	13,841	593	4.3
(林野 (a))	213	206.17	7	3.3
損害額 (千円)	892,933	811,819	81,114	10.0
死者	12	18	△ 6	△ 33.3
〈65歳以上〉	7	13	△ 6	△ 46.2
〈住宅〉放火自殺者等を除く		11		
負傷者	36	53	△ 17	△ 32.1

注) 「死者」には、火災により負傷した後、48時間以内に死亡した者を含む。

●出火原因 (ワースト5)

年度	1位	2位	3位	4位	5位
令和2年	たき火 (117)	たばこ (25)	コンロ (18)	電灯・電話等の配線 (17)	放火 (12)
令和3年	たき火 (121)	コンロ (21)	たばこ (19)	放火 (15)	電灯・電話等の配線 (11)

注1) 畑で枯れ草等を燃やす場合も「たき火」という。

注2) 「放火」には「放火の疑い」を含む。

令和4年度 主な行事予定

行事名	期 日	場 所
第1回理事会	5月16日(月)	長崎市
定時評議員会・臨時理事会	5月31日(火)	長崎市
第75回長崎県消防団大会	6月25日(土)	佐世保市アルカス SASEBO
第37回長崎県消防ポンプ操法大会	8月7日(日)	長崎県消防学校
第41回全国消防殉職者慰霊祭	9月15日(木)	ニッショーホール
第29回全国消防操法大会	10月29日(土)	千葉県市原市
消防団員指導員課程研修	11月7日(月) ～8日(火)	長崎県消防学校
長崎県消防殉職者慰霊祭	11月26日(土)	長崎市
第2回理事会・評議員会	11月26日(土)	長崎市
第27回全国女性消防団員 活性化徳島大会	11月22日(火) ～23日(水)	徳島市
消防出初式	1月上旬	県内一円
第48回消防団幹部特別研修	1月17日(火) ～20日(金)	東京都
第22回消防団幹部候補中央 特別研修 (男性・女性)	2月1日(水) ～3日(金) 2月15日(水) ～17日(金)	東京都
第75回日本消防協会 定例表彰式	3月3日(金)	東京都

消防団員数 (人)

消防団名	消防団員数	消防団名	消防団員数
長崎市	2,594	雲仙市	1,478
佐世保市	1,636	南島原市	1,255
島原市	617	長与町	282
諫早市	1,542	時津町	232
大村市	575	東彼杵町	346
平戸市	1,028	川棚町	251
松浦市	845	波佐見町	302
対馬市	1,480	小値賀町	141
壱岐市	899	佐々町	180
五島市	1,267	新上五島町	822
西海市	1,155	合 計	18,927

(令和3年10月1日現在)

令和3年中の火災件数(月別/火災種別)(速報値)

月	火災件数											火災損害額 (千円)	焼損棟数	火災世帯数	火災人員	負傷者	死者
	建物						その他										
	住宅計			林野	車両	船舶	航空機	その他	焼損面積								
	住宅	併用住宅	共同住宅						建物床面積 (㎡)	林野 (a)							
1月	20	12	7	2	3	8	1	1	14	1,267	52	25	27	52	9	2	
2月	50	22	13	1	2	9	3	5	20	2,140	57	29	22	43	4	2	
3月	35	20	13	11	2	7	2	6	6	1,527	2	28	16	28	6	4	
4月	53	12	8	4	2	4	9	5	27	544	89	19	9	21	2	1	
5月	31	18	12	8	4	6	2		11	918		22	10	22	3	1	
6月	27	11	6	5	1	5	1	5	9	2,769	1	16	7	17	4		
7月	29	17	10	9	1	7	2		8	1,238		26	14	38	1		
8月	26	20	10	6	1	3	10	2	4	1,386		24	9	32			
9月	21	15	9	8	1	6		2	4	312		24	14	35	2		
10月	53	19	5	3	2	14	4	2	28	489	5	21	8	14	4	1	
11月	37	11	7	5	2	4	3	4	17	963	2	19	20	28	1		
12月	28	12	7	6	1	5	2	4	10	880	5	26	18	47		1	
計	426	197	112	82	7	23	29	36	158	14,433	213	279	174	377	36	12	

※「住宅火災」の件数は「住宅」、「併用住宅」、「共同住宅」の合計数となる。

消し忘れに

画 富本 儼草 (あやもとしらべい) きん (松浦市立富本小学校六年) 公益財団法人長崎県消防協会 令和三年度消防団員防火モニター展優秀賞



こ注意!!



この印刷物は、石油系有機溶剤の一部を大豆油に置き換えたソイインキを使用しています。